

美術科教育学会通信 NO. 30

1998年10月5日発行

学会事務局 〒640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学教育学部 美術教育学研究室
TEL 0734-57-7359, 7358 (長谷川・永守研直通) FAX 0734-57-7509, 7508
通信担当〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学 TEL・FAX 0742-27-9223(宇田研直通)

新事務局の発足にあたって

事務局代表 (副代表理事) 長谷川哲哉

本年9月1日をもって学会の事務局が東京学芸大学より、和歌山大学を中心にした関西5大学に移りました。引き継ぎ会は去る8月28日に済ませました。そこで、新事務局の発足にあたり、事務局代表として会員諸氏に一言ご挨拶させていただきます。

関西連合とでも呼ばばよいのでしょうか、新事務局メンバーは和歌山大学に2名(長谷川と庶務の永守理事)、大阪教育大学に1名(会計の岩崎理事)、奈良教育大学に1名(学会通信の宇田理事)、三重大学に1名(情報の上山理事)の計5名からなっています。それに花篤代表理事(大阪芸術大学)を加えると総計6名の陣容になります。学会誌編集等の研究部の仕事は別に柴田副代表理事が担当してくれます。したがって、今後はこれまでのように事務局機能が東京学芸大学に集中していた仕組みとは異なっております。そこで問題は、この関西連合体制がうまく機能していくのかどうかですが、幸いにして永守・岩崎・宇田・上山の各理事はEメールやFAXの活用に習熟されており、様々な連絡は円滑に行われるでしょうし、また花篤代表理事の豊かな経験と統括能力が発揮されることでしょうから、案外うまく進んでいくものと楽観視しております。私も微力ながら事務局代表として力を尽くす所存ですので、どうかご協力のほどお願い致します。

さて、この学会も奈良で産声を上げてから丁度20年になります。学会史の編纂も金子理事を中心に進んでおり、来年3月には発行される予定です。私も創立会員として長らくこの学会に参加してきたところですが、事務局代表・副代表理事という重責を担うことになろうとは、地方の和歌山大学に勤務ということもあって、夢にも思いませんでした。事務局を引き受けてはどうかという話は、今年の初めに宮脇前代表理事よりあったのですが、その節は、永守理事と私の2名のみでは絶対にできないと申し上げておき、その後には花篤代表理事のもとで理事全員の職務分担の話が進み、結果として関西連合体制が出来上がった次第です。しかし、ここまでの過程がどうであれ、事務局には諸種雑多な仕事があることを考慮すると、連合体制というのはこの先何十年もの学会発展にとって試金石になるものと思います。その意味でも会員諸氏のご援助、ご協力の程を再度お願い致します。

とりあえずの向こう一年間の仕事としては、最も基本的な会計業務、年4回の学会通信の発行を行い、そして新しい会員名簿の編集・発行を加えたいと考えています。各理事の積極的参加も得て、会員の研究発表・交流の機会作りの他に、教育現場との適切な関係作りにも配慮したいと思います。各理事はそれぞれ職務を分担し、事務局はそれら職務の諸連絡や関係調節を行うことになっております。その意味で、事務局は神経中枢みたいなものです。会員諸氏は身近な理事を通じて、あるいは直接事務局に様々なご要望、ご意見をお寄せください。できるかぎり尊重するつもりです。

E.mail=tetsuya@center.wakayama-u.ac.jp

美術科教育学会役員会での主な討議事項、報告事項

1998年8月28日12時30分～17時

於：東京都中央区日本橋べんてるビル14階会議室

記録的な大雨で各地の交通機関が大幅に乱れる中、25名の理事が集まり以下の議題についての討議が行われました。紙面のスペースの関係から主な項目について報告いたします。

討議事項

■新理事の職務担当と事務局との関係 について

学会通信29号で報告した内容が以下のように修正され、承認されました。◎印のついた理事を連絡世話人(窓口)とし、各職務との連絡調整を事務局の各担当係が行うことになりました。

- ①学会活動・行事－◎宮総理、藤江充、武田薫、橋本泰幸 [事務局係 長谷川]
(活動の具体例：シンポジウムの企画、学会表彰制度の設置検討、等)
- ②会員組織・名簿－◎赤木埋香子、増田金吾 [事務局係 永守]
(活動の具体例：最新版会員名簿の作成、学術センターの機能活用、等)
- ③学会通信編集－◎新井哲夫、浜本昌宏、那賀貞彦 [事務局係 宇田]
(活動の具体例：通信の記事内容としての書評、ミニ評論等の企画編集)
- ④学術会議・他学会関連－◎竹内博、長田謙一、福山博光 [事務局係 長谷川]
(活動の具体例：学術会議との関係・交渉、他学会との連携検討、等)
- ⑤学会誌編集－岡崎昭夫、仲瀬律久、大橋皓也、金子一夫、吉井宏 [事務局係 長谷川]
(活動の具体例：学会誌投稿論文の募集、査読、編集、印刷、発行、等)
- ⑥現場実践－西野範夫、東山明、天形健、辻田嘉邦、堀典子、宮坂元裕 [事務局係 岩崎]
(活動の具体例：ワークショップ企画、現場研究会との共催企画、等)

上記の⑤学会誌編集担当理事の所に◎印がついていないのは、次のような事情によります。学会誌の重みを考えると、⑤の学会誌編集の担当理事の中だけで責任者を決定するのは適当ではない、等の意見が出され、討議の後に全理事の中から学会誌編集委員長を選出することになりました。出席理事による単記投票で選挙が行われ、その結果、柴田理事が学会誌編集委員長に選出され、承認されました。柴田委員長を中心に上記の⑤学会誌編集の担当理事がサポートする体制となっています。

■鈴木・大勝両氏の学会功労表彰について

下記の長谷川事務局長の文章を参照。

■学会開催について

大阪大会の報告・反省、次回福島大会の進捗状況が報告されました。また、次次回開催校(2000年3月の開催予定)として、兵庫教育大学が正式に決定しました。

■学会誌査読結果の報告と承認

48編の投稿があり、厳正な査読の結果36編が掲載されることが承認されました。

報告事項

■『学会20年史』編纂の進捗状況について

来年3月には発行できる見通しがついたとの報告が、金子理事よりありました。

鈴木・大勝両氏の学会功労表彰について

今期理事会は、学会創立以来長きにわたり学会の発展のために尽力されてきた鈴木寛男氏と大勝恵一郎氏に対し、その功労を特別に表彰することに決定しました。この表彰は学会創立20年を記念しての意味合いもあります。鈴木氏は代表理事等を、大勝氏は理事と編集委員長等を歴任され、その功績には特に顕著なものがあります。両氏に対し来年3月の福島大会で表彰状と記念品を贈呈するとともに、学会誌20号に両氏の<履歴、功績、

表彰文>等を掲載することになっております。なお、この表彰は今回限りの特別な行事です。
(長谷川)

学会事務局のメンバーからの一言

「人のネットワークとしての学会を一度務からの挨拶」

庶務担当 永守基樹(和歌山大学)

和歌山大学に本部事務局が置かれることになり、自然の成り行き(?)で庶務を担当することになりました。学会運営の庶務雑用は多岐にわたり、当方の能力をかなり超えるようにも思います。何卒会員各位のお力添えと御寛恕をよろしくお願い申し上げます。

さて、庶務担当としての懸案事項は、とりあえず以下の4点を考えています。

- ①正確な最新版の名簿を作成する。
- ②学会内組織のネットワークを整備し、様々な情報の流れを円滑にし、活性化に資する。
- ③大会や関連の主催行事を側面から支援する態勢をつくる。
- ④会員数拡大に向けての態勢をつくる。

近未来には、諸連絡はもとより学会誌までも電子メディア化されるかも知れませんが、学会は人のネットワークです。その趣旨を生かすことを心掛けたいと思っています。

E-mail=nagamori@center.wakayama-u.ac.jp

「2つのお願い」

会計担当 岩崎由紀夫(大阪教育大学)

9月より、前担当の東京学芸大学の増田理事より引き継ぎ、学会の会計担当になりました。よろしくお願い申し上げます。増田理事より丁寧な説明を受けましたが、まだまだ、仕事内容の理解が遅く、実感の湧いていないというのが実感です。

関西連合としまして新事務局が発足したわけですが、なんとかチームワークで乗り切っていきたいと思っております。交通費等の関係で理事会開催の回数すら制限されている状態です。御承知のように本学会は年会費収入そのものが財源です。そこでは担当といたしましては、会費納入を迅速にさせていただきをお願いをする以外ありません。

支出内容は、学会の創設20周年記念史『学会20年史』編纂費用等の支出予定もあり、迅速に年会費の納入をしていただければ、滞納のないこと、会員の増員をお願いするしかありません。学会活動が活性化するには会計面での充実が望まれます。

そこで、会員の皆様には次の2つのお願いをしたいと思います。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

- (1) 会費は、学会事務センターからの『最初の請求』の時点で「すぐに・間を置かず」センターへ支払って下さい。。当該年度ごとに会費納入がされないと、その年度の会費収入額の誤差が大きくなり、運営に支障を起こすこととなります。
- (2) 論文投稿者は、『請求が行き次第』ただちに決まった金額を本部事務局へ支払ってください。そうしていただかないと会計年度が跨がってしまうため、会計報告に支障を来すこととなります。

学会の「拡充と深化」を目指して、まず会計面の充実を図りたいと思っております。何卒ご協力・ご支援いただきますことを切にお願いしてご挨拶にさせていただきます。

E-mail=yiwasaki@cc.osaka-kyouiku.ac.jp

「学会事務と電子情報化」

情報担当 上山 浩(三重大学)

私の担当は「電子情報化」に関わるもので、インターネットを利用した電子情報の通信により、学会事務のより円滑な運営や学会員への便宜を図るために新設されました。具体

的には、学会ホームページの開設や管理、学情センターとの連絡や協議、その他に今後に向けて電子メールの活用やインターネット関連の各種サーバの運営などが主な作業となります。特に、ホームページ開設と学情センターとの連絡は、これまでは、基礎データベース構築部会の職務として進めてまいりました。今後とも、本部会の皆さんに支えられて作業を進めていくこととなります。よろしく願いいたします。

学情センターの電子図書館とは、再三お伝えしましたように、インターネットを介して各種学会の研究誌等を閲覧できるサービスです。本学会も初期からこのプロジェクトに参加していましたが、先頃からようやく本学会学会誌『美術教育学』の閲覧が可能になりました。まだ、全ての号は収録されていませんが、追って全巻収録される予定になっています。近々詳しい閲覧方法等をご紹介させていただきます。一刻も早く利用されたい方は、http://www.nacsis.ac.jp/els/els_j.html にアクセスしてみてください。

近日中に学会の公式ホームページを公開いたします。規約や沿革の他、学会通信、学会誌の目次の閲覧などが可能です。とりあえず形式の整ったものを10月中に公開する予定です。公式のURLは<http://www.soc.nacsis.ac.jp/aea/index.html> になりますが、現在は暫定的なページを公開しております。<http://133.67.94.54/AAE/home.html> をご覧ください。また、このページは、これから学会に参加されようとする方への宣伝の機能をもつことにもなります。掲載情報やデザイン等つきましてご意見、ご批判、ご助言などを頂けるとたいへん助かります。連絡は下記までお願いいたします。

E-mail=ueyama@edu.mie-u.ac.jp

「刺激的な通信をめざして」

学会通信担当 宇田秀士(奈良教育大学)

今年1月に、第20回学会公開シンポ(プレ学会)が「リレートーク:大阪のバワフルな美術教育は、いま!」というテーマの下に開催されました。バワフルなバネラー様いのこのシンポに参加して感じたことは、「やはりバトルはパワーを生む」という思いでした。

現実的には難題がいくつも押し寄せ、何かと気持ちが曇りがちな毎日ですが、こんなときこそ、いくつかのバトル(論争)を起こしてパワーを生み出していくことが本学会や美術教育にとって、大切ではないかと考えています。微力ですが、そのバトルのお膳立てをこの通信でできたら、と考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、事務局通信担当係としていくつかの報告・連絡をいたします。

1. 本号30号は、転換期ということもあり事務局の編集で行いましたが、次号からは、新井、浜本、那賀の理事の先生方に、企画頁を作成していただくことになっています。「書評、ミニ評論、提言」等の企画頁と事務局で作成する「予算・決算報告、学会行事案内」等の事務連絡頁をあわせて一つの通信にする予定です。
2. 通信の活性化のために会員諸氏の投稿をお持ちしております。事務局(宇田 E-mail udah@nara-edu.ac.jp) または、新井理事まで原稿をお寄せ下さい。
新井哲夫先生 所属 群馬大学教育学部 〒371-8510 前橋市荒牧町4-2
TEL・FAX 027-220-7316(研究室直通)E-mail=arai@edu.gunma-u.ac.jp
3. 本年度の科研費取得状況を事務局(宇田)までお寄せください。

◎僅か4頁の通信ですが、前任の柴田先生に随分と助けていただきました。御亡くなりになられたた石川先生も含めた前任の事務局3人の先生方の思いや御努力を無にしないような仕事を心がけたいと思っています。

◎新井先生を中心に既に31号の企画が始まっており、次号からは通信のレイアウトも一新する予定です。お楽しみに。